

学校目標・経営方針	新時代を主体的・創造的に生き、知徳体をそなえ、地域の希望となり未来となり光となって、山梨や日本を支え、世界に羽ばたくエンジニアを育成する。
-----------	---

山梨県立甲府工業高等学校校長 菊 島 圭 一

本年度の重点目標	1 社会が必要とする人間力を育成する。	達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)	評価	4	良くできている。
	2 基礎的基本的な学力の定着を図る。		B	概ね達成できた。(6割以上)		3	できている。
	3 健全な心身を育成する。		C	不十分である。(4割以上)		2	あまりできていない。
	4 新しい時代に対応した教育活動を推進する。		D	達成できなかった。(4割未満)		1	できていない。

自 己 評 価				
本年度の重点目標				年度末評価(令和6年1月19日現在)
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果 達成度 成果と次年度への課題・改善策
1	社会が必要とする人間力を育成する。	基本的生活習慣の定着を図り、規範意識を育む。	毎日の始業前遅刻指導と遅刻者指導の実施	B
		教育活動全体を通して人間教育を行い、道徳性を養う。	学校生活全体を通じて指導の徹底	
		社会人としての基礎力を育成し、自らの考えで行動できる力を育む。	社会性や情報モラルの形成と、交通事故・違反減少への指導	
		地域社会や企業と連携した活動を通して、社会の一員としての自覚と責任を持たせ、社会に貢献できる人を育てる。	企業現場実習及びボランティア活動の実施	
2	基礎的基本的な学力の定着を図る。	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を実践する。	相互授業参観及び研究授業の実施、適切な観点別評価の実施	B
		学科の特色を生かし、基礎基本の上に専門的な知識や技術を身につけさせる。	基礎基本の学習と専門的な学習の充実	
		目指す技術者をイメージさせ、資格取得・大会等への挑戦を通じて進路実現を図る。	資格取得指導の充実と大会参加の推進	
		教育活動全体を通してコミュニケーション力を育成する。	教科指導の中での言語活動や面接及び小論文指導の充実	
3	健全な心身を育成する。	部活動・委員会活動をより活発に展開し、豊かな人間性を育む。また、その運営方法の適正化を図る。	部、委員会単位での年間指導目標・年間指導計画の作成と適切な休業日の設定	B
		体育・スポーツを積極的に推進し、体力・精神力の向上を図る。	生徒へのきめ細やかな指導の確立	
		健康、安全や食に関する教育を行い、自他の生命を尊重する心を育む。	各教科での取り組みと各種講演会の実施	
4	新しい時代に対応した教育活動を推進する。	SPH事業の成果を活用し、課題解決力・創造力を育成する。	課題研究の内容の充実や生徒研究発表会の実施	B
		系統的・体系的なキャリア教育を推進し、勤労観や職業観を育成する。	キャリアパスポートの利用	
		専攻科において、高度な知識や技術・技能、設計力の育成を推進する。	専攻科のさらなる発展及び本科との交流の充実	
		学校教育全体において、ICT機器を活用できる力を育む。	授業、アンケート、外部への情報発信等でのBYOD端末の活用	

学校関係者評価	
実施日(令和6年1月20日)	
評価	意見・要望等
3	・出席率の高さや多くの生徒が挨拶をしている現状から、基本的生活習慣の確立はされている。 ・遅刻者指導や交通マナーは、一朝一夕で徹底できるものではなく、根気強く指導をしていくことが必要。 ・原動機付自転車の免許取得を通して、交通安全指導を行っていくことも有効ではないか。 ・企業実習の取り組みは大いに評価できる。 ・社会の甲府工業高校の生徒に対する評価は高いと感じる。一方で時代の流れは早くなっているため、これに対応しつつ、さらなる進化を望む。
3	・ICTを活用した授業の実践事例共有は推進していくべき。しかしながら、ICTを使えば学力が身に付くわけではなく、学習効果を上げるための使用方法を研究するという趣旨を忘れないこと。 ・文武両道が求められるが、学力において、基礎学力を把握する取組が必要。 ・資格取得は生徒の自信に繋がる取組であり、評価できる。 ・多様化、グローバル化が進む中、様々な国の言語や文化を学ぶ機会などがあっても良いかと思う。
3	・部活動、委員会活動を通じて人間関係を築いていく取組は重要であり、大会入賞や上位大会出場など目標を設定しての取組とすることは、効果が高まると思う。 ・心身のケアは、新型コロナウイルス感染症拡大後、全国的、世界的にも憂慮すべき事である。スクールカウンセラー等との連携で、対応していったほしい。
4	・教師が、常に新しい時代に求められていることに注目し、それを踏まえて教育活動を実践していくことが求められる。 ・社会で活躍している卒業生の講演会を実施できたことは、評価できる。定期的な実施ができると良い。 ・新たに導入される工業探究プログラムには期待が持てる。 ・IT化が進む中、チャットGPTやVRなどに触れる機会も取り入れていったほしい。